

わたしの価値観

(原文)

小俣 奈央 (13 歳)

静岡県

不二聖心女子学院中学校

女友達とはどこへ行くにも一緒に、お互いのことをすべて知っています。または、監視しています。そしてグループで行動します。

小学4年生までは、私は「こういう」友達が欲しいと思っていました。

けれども、親しい女友達ができる前に小5で初めて親しい男友達ことができました。そこで私は、自立した友人関係の面白さを知ることになりました。

男友達とは、恋愛感情抜きに、素の自分を出せる相手でした。私は複数の男友達と仲良くすることで、色々な学びや気づきがありました。

まず、なにか物事について意見を聞いた時、女の子からでなさそうな意見や視点、考えが出ます。また、男性目線であるがゆえの的確なアドバイスをくれます。私はその時、ファッションや髪型等を気にしない年齢でしたが、いちいち注文の多い彼らに教えられ、少しずつ身につけていきました。

また、女友達だと言にくいことや周りの視線を気にして聞けないことなどを、男友達なら気にせず話せ、気持ちが軽くなりました。「お互い気をつかわなくていい関係」というのは、とても貴重だと感じました。

そして、女友達との会話では話題にならないような「未知の世界」について教えてもらいました。自分の知らないジャンルの話は聞いていて面白く、おしゃべりの中で知識が増えていきました。

私は、彼らと一緒に時間を過ごす中で、友人関係を構築するために、相手を深く知ることに「頭を使う」ようになりました。相手の嬉しいもの、嫌なもの、心地良いこと、望み、必要なもの、要らないものを理解することに努力しました。それによって、彼らと友情を育むことができました。

彼らはとても仲が良かったけれど、ずっと一緒にいるわけではありませんでした。でも、それぞれが別の友達と親しくしている時も「目に見えない絆」を感じました。その特殊な友人関係は私の「友達の在り方」の「価値観」を根底から変えました。目に見えるものが全てではないのだと。

中高一貫の女子校に入り、私は、個性が強い女友達にも、自分と似たタイプの女友達とも出会えました。彼女達と過ごしている日々でも新たな発見がいくつもありました。

彼らに影響を受けたように、私は今後6年間でも、様々な影響を友達や周りの人から受けることになるでしょう。それは、きっと私を成長させていくのだと思います。

そして、卒業後も、彼女達と、「目に見えない絆」を感じられる友人関係を築けていたらいいなと思います。

今後、ジェンダーレスは社会にもっと浸透していくと思います。今は「女性の意見を！」という声が多く上がっていて、男女差別イコール女性差別と認識している人もいるかもしれません。しかし今までの社会の中で、決して女性だけが差別を受けていたわけではありません。男性も「男らしく！」「弱音を吐いてはいけない」など男性ならではの差別を受けてきています。

実際男友達と話していた時、男の子であるがゆえに、取り繕ったり、泣けなかったり、男の意地があって謝れなかったりすることがありました。その姿を見て、男は面倒くさいなと思っていましたが、彼らは体格や運動能力に違いのある女子の私を気づかって遊んでくれました。性別が違って、同じことをしようとしてくれるその気づかいが、人として認めてくれている、と思えて嬉しかったです。

だからこそ私は、男性の視点も女性の視点にも耳を傾けられる自分でいたいです。そして、男性・女性関係なく、人として認めていく。そんな社会にしていきたいと思います。